

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立佐賀西高等学校	
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートや進路の各種資料等を通して職員の頑張りは伝わる。生徒が回答する授業満足度や自己実現への進路選択達成率は高いが、教師はまだ向上の余地があると考えている。</li> <li>探究活動成果発表会もあり、総合的な探究の時間の取り組みは高く評価できる。令和5年度も外部の方との対談などを積極的にい行い生徒が一步上を目指すような取り組みを行う。</li> <li>令和4年度はコロナ禍もあり、オンラインでの授業・教材の発信が積極的に行われた。本校の情報発信の取り組みは十分にできていると思われるので令和5年度も継続していく。</li> <li>新教育課程と新評価が始まり戸惑いや問題点も散見される。令和5年度も各教科で今後の動向を予見した研修に取り組んでもらいたい。</li> </ul>	
2 学校教育目標	<p>【目的】 社会の中でよりよく生きていけるようになる (Well-being)</p> <p>【校是】 「質実剛健」(中身が充実して飾りがなく、心身ともに強くたくましいさま) 「鍛身養志」(互いに切磋琢磨し、体を鍛え、高い志を養う)</p> <p>【目標】 将来の日本や世界をリードする人材の育成</p>	
3 本年度の重点目標	<p>【スローガン】 問い続ける</p> <p>(1) 主体性・志(夢・目標)を育み、学力向上により、高いレベルで進路保障を実現する。 (2) 体験的教育活動を重視し、人格を磨き、人間力の向上に努める。</p> <p>(3) 唯一無二の誇り高き信頼される学校づくりに努める。 (4) 組織力の向上と業務改善の推進を図る。</p>	

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価			主な担当者		
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価			学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果			評価
●学力の向上	◎★高い志を持ち、自らの夢や目標の実現に向けて主体的に努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎学習状況調査結果: 授業満足度・予習・復習、課題への取組み 92%以上 ◎★学校評価アンケート結果: 自己実現への進路選択達成率 80%以上	・「総合的な探究の時間」で、社会に目を向け自分の将来像を描かせる探究活動を中心としたキャリア教育を実践する ・各種活動履歴の整理、保存等、ポートフォリオの蓄積にClassiを有効活用する ・ジェネリックスキルテストキャリア・パスポートを有効活用する ・学年に応じた具体的な進路情報を提供、大学入試に関する理解を深める ・三者面談、保護者会等を通じて、進路指導に関する保護者の理解と協力を得る	B	・1学期末の学習状況調査結果: 授業満足度(全学年) 授業の準備と積極的な参加 79%(全科目平均) ・3学年ともに保護者会を実施し、時機に応じた情報を提供することができた。特に1年生の保護者に対しては、社会状況を踏まえた新課程入試や高大接続に関する大学教授の講演等を行い、文理選択の一助となる情報を提供した。	B	・学習状況調査結果: 予習・復習、課題への取組み 82.3% ・学校評価アンケート結果: 自己実現への進路選択達成率 生徒平均96.6% ・「総合的な探究の時間」(2年ポスターセッション)については、昨年度より半年早く始め、8月には美術館ホールで「探究活動発表会」を実施できた。ただ、夏季休業中でもあり、中学生の参観が少なかったことも踏まえ、日程については再考する必要がある。 ・東京大学より講師を招き、「学ぶ意義について」の進学講演会を実施することが出来た。また、本校OBの若手講師を招き、高校時代の学習方法や進路選択の仕方等についてより具体的な話をしてもらうことで、生徒の主体的進路選択に向けた意識醸成を図った。	A	・色々な取り組みがなされておりA評価でよいと思う。 ・成果指標の"予習"は必ずしも必要なのか。 ・課題解決に向けて様々な取り組みを工夫し、意識向上を図ろうとしている事が伝わってくる。	各学年主任 進路指導主任
	○主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた教師の授業力向上と生徒の学習への主体的取組を確立	○学習状況調査結果: 授業満足度・授業への評価 90%以上 ○学校評価アンケート結果: 教師自身の授業力向上への取組みの自己評価 80%以上 生徒の学習への主体的取組の自己評価80%以上 ○進研模試全国偏差値: -1,2年 65以上 ○日々の記録集計結果: -各学年平均180分以上	・教科会議の充実(教科内での連携を図る)、シラバスの見直し、教授法研究、作問・評価方法の検討等を進める ・各種研修会に積極的に参加する ・各学年で教科担当者連絡会を開き、生徒の現状を把握し連携して課題解決を図る ・ジェネリックスキルテストを有効活用して、クラス担任や教科担当による個人面談や個別相談体制を充実させ、きめ細やかな学習が「イン」を行う	・1学期末の学習状況調査結果: 授業満足度 授業への評価93%(全科目平均) ・予備校等の研修会(対面)は旅費が準備できる限り参加している。オンラインでの研修会は、案内が来る度に関係教科に周知し、申込を促した。 ・各学年で教科担当者分析会を実施して、生徒の現状把握に努めた。 ・ジェネリックスキルテストの振り返りを行い、2年生については2回目の受験に向けて準備している。1年生も同様に振り返りを行い、個人面談に活用している。 ・朝補習廃止後の学習時間の減少に歯止めがかからず、模試成績も下降気味であり、学年集会や面談等で意識喚起を行っているものの、早急な手立てが必要な状況である。	B	・学習状況調査結果: 授業満足度 授業への評価93.7%(全科目平均) ・学校評価アンケート結果: 教師自身の授業力向上の取り組みの自己評価96.5%/生徒の学習への主体的取り組みの自己評価95.2% ・先進校視察先(神奈川、広島各県トップ校)を行い、教科内での共有を図り、職員会議で報告し指導に活かしている。 ・模試受験後、学年主導で教科担当者分析会を実施してもらったが、次年度の新課程入試を踏まえた情報共有がまだ不足している。 ・生徒の家庭学習時間が例年通りまで戻らない状態が依然として続いている。朝HRやLHR、学年集会、全校集会等で粘り強く訴えていくしかない。全学年での1日の平均学習時間は181分であった。 ・2年2月に受験するジェネリックスキルテストの結果を早急に分析し、多様な入試形態への対応を的確に行っていく。	B	・コロナ禍やインフルエンザの流行がある中で、生徒・教員が高い志をキープしようと頑張っておられる。 ・評価指標の%はいずれも高く評価Aでいいのではないかと。 ・全国偏差値の目標設定が高いのではないかと。昔は超えていた時期があったということだが、見直しがいるのではないかと。 ・教師への内外のプレッシャーが高いと思う。 ・目標に実態を近づけるか、実態に近い達成可能な目標設定をし、達成感を味わえるように、スモールステップでもいいのではないかと。	A	進路指導主任 各学年主任 各教科主任 教務主任
	○ICT活用に関する職員のスキルアップと生徒の学習用PC活用率の向上	○学校評価アンケート結果: 電子黒板または学習用PCを活用した授業の実施率80%以上 ○学習用PC使用頻度調査結果(1,2年生): 学習への活用1日1回以上 80%以上 プレゼンテーションや部活動での利用率80%以上	・ICTを活用した授業の実施 ・公開授業、研究授業の実施 ・オンライン教材の作成 ・ICT活用に係る各種研修会へ職員派遣 ・総合的な探究の時間、ホームルーム活動、学校行事、部活動等での学習用PCの利用	・電子黒板の利用率はどの教科でも非常に高い。授業における学習用PCの利用は、教科の特性によって差がある。 ・ICTを活用した公開授業等ほどの授業でも実施され、ICTの活用がなされている。3年生については相対的に利用は低い。 ・ICT活用に係る各種研修会へ職員派遣は適時実施している。 ・総探での学習用PCの利用率は高く、特にプレゼンテーション作成や調査等に利用されている。しかし、通信環境や機材のスペック等に不足を感じることもある。	B	・電子黒板の利用率はどの教科でも非常に高い。 ・学習用PCを活用した授業は教科によって差があるが、実施されている。講演会や始業式等は会議室からのリモートで実施し、従来の目的は達成できたとともに、生徒の体調にも配慮ができた。 ・Classiの利用により、出欠管理はもとよりアンケート調査・授業のサポートとして活用ができた。 ・Wifiの通信環境が脆弱で、2学年が同時に利用すると、調べ学習や講演会が同時に実施することが困難になりその対応が必要である。 ・電子黒板または学習用PCを活用した授業への評価80%以上であった。	A	・ChatGPTやMiro AI等の新しいツールを使う機会を増やしてはどうか。AIを単なる文章作成のツールとしてではなく、探究の中身の活用まで踏み込むというのではないかと。 ・生成AIを使う際、プロンプト、質問の仕方などで答えが違ってくるか、そういう事を教えてはどうか。 ・引用にはルールがあるので、リファレンスをしっかり書くような指導が必要である。	A	教務主任 (各教科主任) (各部活動顧問)
●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の推進	○生徒指導措置数: 0件 ○部活動加入率: 80%以上 ○学校評価アンケート結果: 校則や交通ルールの順守への自己評価 90%以上 ○SNS使用による不適切な掲載、投稿等のトラブルを0(ゼロ)にする	・全職員で共通認識を持ち、一貫した生活指導を行う ・登校指導等で、挨拶、身だしなみ等の指導を行う ・学校行事、部活動、生徒会活動、校外活動等への積極的参加を促進 ・栄城令和宣言SNS五箇条の遵守 ・情報モラル講演会等で、具体例を交えて指導を行う	・特別指導を必要とする生徒指導問題が2件あった。 ・部活動加入率は94.6%であった。過去5年間で最高の加入率である。来年は95%を目指したい。 ・県内高校生が違法薬物所持で逮捕されたりいじめの重大事案も報道されている。基本的な事項を周知徹底していきたい。	A	・本校では、令和6年度から標準服制度を導入する。そのため多くの場面で、私服着用が可能になる。現在、私服着用の運用内規を生徒制服検討委員会を中心に仕上げていく段階である。 ・生徒会活動・学校行事・部活動などに積極的に取り組み、人間教育的内容を含め多くのことを学んだ。 ・他を思いやる心・豊かな心の教育については、毎朝の校門挨拶指導や全校集会時のSNS利用講話等で育むよう働きかけた。朝の挨拶は少しずつ改善されてきた。 ・特別指導を必要とする生徒指導問題 2件 ・部活動加入率 94.6% ・生徒の交通ルールの順守への自己評価 95.5% ・挨拶、時間厳守等の基本的生活習慣が身についたと感じた生徒 89.9%	A	・現行の方針で十分であると思う。 ・学校評価アンケートの結果も良好である。 ・部活動加入率がとても高く活発であると同える。 ・生徒が主体となった活動をもっと紹介しているのではないかと。	A	各学年主任 生徒指導主任	
●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ重大事案件数: 0件 ○個人または三者面談: 年6回 ○学校評価アンケート結果: いじめの早期発見と対応への評価 90%以上	・年3回いじめに関するアンケート調査を実施 ・クラス担任、教科担任や部活動顧問、養護教諭等から広く情報を収集 ・発覚後の速やかな対策委員会開催、関係職員間での情報共有により組織的に対応し、被害生徒のケアと保護者への説明を適切に実施	・2回はいじめに関するアンケートを実施 ・4回の個人面談(2回の三者面談)を実施 ※いじめ事案認知件数17件(2学期末現在)	B	・年間3回はいじめに関するアンケート調査を実施した。 ・個人面談は年6回実施し、校内いじめ体罰等対策委員会では定例で3回、その他7回程実施。 ・いじめの早期発見と対応への評価 97.2% ※いじめ事案認知件数 20件	B	・件数で0を目指すも、隠ぺいに向かうので、件数が増えたこと自体は早期発見につながるのではないかと。 ・いじめ事案が0でいいかどうかは、「認知件数がゼロの場合、放置されたいじめが多数潜在する可能性がある」とする文科省の見解と、実際にアンケート調査をする学校での違いもあると思う。認知された場合の対応が上手く行えるかが大切である。	B	主幹教諭 各学年主任 生徒指導主任 教育相談担当	

様式1(高等学校)

●健康・体づくり	○環境美化への主体的な取組	○学校評価アンケート結果: ・掃除、ごみ持ち帰りへの取組 90%以上	・生徒保健委員によるゴミのチェック、呼びかけ ・生徒主体型の環境美化に関するホームルーム活動	A	・生徒保健委員によるゴミ分別の推進は良好。 ・環境美化に関するホームルームは2年生は6月に実施済み。1、3年生は12月に実施予定。	A	・掃除、ごみ持ち帰りへの取り組みは93.8%と評価された。 ・環境美化への意識は高く、日々の掃除はもちろんのこと、学期ごとの大掃除や中掃除などに取り組む姿勢は目標を上回るものがある。 ・ゴミの持ち帰りや分別についても意識の高揚がみられる。	A	・SDGsの意識の一環でもあり、取り組みやすいのだろうか。ほっとする報告である。	保健指導主任
	○自発的な読書習慣の確立 ○社会や世界への広い視野を養う活動の推進	○生徒一人当たりの貸出冊数:年5冊以上 ○学校評価アンケート結果: ・自発的な読書習慣の涵養への取組み評価 70%以上 ○社会問題や国際問題に関するインフォメーションペーパーを年2回以上発行する	・推薦図書を図書館だより『遠心』臨時号で紹介する ・掲示物・レイアウトを工夫し、来たくなる図書閲覧室を作る ・買って読んだ本や電子版で読んだ本を集計する ・新聞やニュース等で注目されている社会的・国際的な時事問題をまとめ、小論文の題材としてインフォメーションペーパーで紹介する。	B	・図書館だより『遠心』で新着本や推薦図書を紹介し、生徒の読書への意識を高めようとしている。 ・読書アンケートを実施し、学校図書館以外で購入したり、借りたりして読んだ本を集計している。 ・まだインフォメーションペーパーを発行できていないので、今後取り組みたい。 ・9月までの一人当たりの貸出冊数は3.37冊である。	B	・図書館だより『遠心』は臨時号を含めて5回発行し、図書に関する情報提供や推薦図書を紹介することができたが、生徒の自発的な読書習慣に対する回答が、「そう思う」「やと思う」をあわせて53.8%だった。 ・定期的に読書アンケートを実施し、学校図書館以外で購入したり、借りたりして読んだ本の冊数を集計することができた。 ・生徒が興味を持っている社会問題の調査は実施できたが、インフォメーションペーパーはまだ発行できていない。 ・12月までの一人当たりの貸出冊数は4.3である。	B	・自発的な読書習慣については、数年来70%は達成できていないので、目標値を再検討した方がよい。 ・校外の書店勤務の方等に、本の魅力やお勧めの本等の話をしてもらい機会を作るといのではない。	学校図書館主任
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・生徒指導部を中心に登校指導を行う ・生徒会の生徒宣言で交通マナーに関わる内容に触れるよう働きかける	B	・毎朝、生徒指導主事・副主事で、校門指導を行った。朝の挨拶指導も生きているが、少しずつ大きな声で挨拶が返ってくるようになった。今後も継続したい。 ・今年度前期の本校生徒自転車事故は、例年より少し多く13件である。殆どが被害側であるが、防げた事故も多いと感じている。自転車事故マナーの遵守を徹底したい。	B	・年度初めから交通の要所を掲示物で示し、集会等で自転車マナー遵守について注意喚起した。 ・7月に佐賀南警察署交通課職員による交通安全教室を実施した。佐賀県の自転車事故の現状やヘルメット着用の重要性を話していただいた。 ・令和5年4月から自転車乗車中のヘルメット着用が努力義務になったため、集会等でヘルメット着用を推奨した。まだまだ学内のヘルメット着用率は高くないのが現状である。 ・交通事故件数は昨年比微増の18件(1月29日現在)である。殆どが軽微な事故である。	A	・指導も複数回行われており、18件の事故の内容も軽微なものだけなので、評価はAでいいのではないかと。 ・ヘルメットについては安全面で必要なら指導した方がよい。ヘルメットが格好良ければかぶるのではないかと。	生徒指導主任
	○疾病予防への取組	○重度の熱中症を起こさない ○保健だよりでの感染症予防啓発:年4回 ○学校評価アンケート結果: ・校内の感染症予防への評価 90%以上	・朝の時点で暑さ指数を職員室横廊下に掲示し予防に役立てる ・生徒が活動する際、休憩や水分補給を積極的に行う ・保健室利用状況及び感染症情報収集システム等を活用し、早期に校内外の流行状況を検知し、保健だよりを通して発信 ・生徒主体型による感染予防喚起のホームルーム活動	A	・WGBT等の活用とともに、授業間における水分補給や休憩など十分にできた。 ・夏季休業中及び学校祭期間にも熱中症等の症状は少なかった。 ・感染症予防喚起のホームルーム活動では保健委員が主体性をもって実施できた。	A	・保健だよりの中で、6回時期に合わせた感染症予防の呼びかけの記事を載せ、注意喚起ができた。また、流行が予想される時に、朝礼で換気の呼びかけを保健指導部より行った。 ・11月に保健委員による各教室の空気検査を実施し、集団における感染症予防の中でも換気的重要性を考えさせる機会を持たせられた。 ・校内の感染症予防への評価 95.6%	A	・全国的な感染の中、適切な対応をされている。 ・保健だよりの配布は紙媒体とホームページの両方を行った方がよい。 ・職員、生徒とも修学旅行や共通テスト等の行事での感染症対策を実施できている。	保健指導主任 (保健体育科主任) (各部活動顧問)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日、部活動休業日、学校閉庁日の設定と実質的な運用 ・ICTを活用した業務改善と効率化 ・出退勤システムによる職員の時間外在校等時間の把握と長時間勤務削減の呼びかけ ・年次休暇等の休暇取得の勧奨	B	・夏休5日を取得しやすいよう休休日・祝日を除いた学校閉庁日を7日設定した。 ・定時退勤や休暇取得の推進のため、考査期間中の会議や研修を極力削減した。 ・欠席連絡や諸調査、各種アンケートなどのICT活用は業務の効率化につながっている。	B	・考査期間中の会議等の削減や会議時間の縮減など業務改善と定時退勤や学校閉庁日の呼びかけを行ったが、アンケートでは職員の長時間労働の縮減・解消に対する意識が昨年度より低い結果であった。毎月の平均時間外在校等時間は昨年度とほぼ変わらなかった。 ・欠席連絡や調査等のICT活用は定着しており、様々な案内や連絡にも積極的なICTの活用が進んでいる。	B	・月100時間超の勤務の職員が4名おり、ケアが大変だと思う。 ・お互いに仕事をシェアするようになってほしい。	副校長

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者	
重点取組				中間評価			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
★探究活動の推進	★新・理想の星プロジェクトの実践	★探究活動を通して、自らの思考が深まった90%以上 ★探究活動を通して、他者と協働できた90%以上 ★自分の学校を中学生に勧めることができる 生徒78%以上 教職員85%以上	・主体的な探究活動を推進し、他者と協働しながらポスターセッションに向けて準備させる ・フィールドワークを推奨し、研究に深まりをもたせる ・中学生を含めた多数の聴衆の前で発表する機会をもたせる	A	・2年生のポスターセッション及び探究活動発表会は無事に終了した。その中から優秀な作品は、3月実施の京都大学ポスターセッションへ参加する。 ・1年生は夏までに社会問題研究を終え、現在ポスターセッションのテーマ決めを行っている最中。夏にはプレゼンテーション研修も行い、パワーポイントの使い方なども習得している。	A	・2年生はフィールドワークを踏まえた研究成果としてポスターセッションを7月に行い、その優秀作については、8月の探究活動発表会でプレゼンを行った。1年生は2年1学期のポスターセッションに向けてフィールドワーク等の準備を始めている。 ・探究活動を通して、自らの思考が深まった 89.3% ・探究活動を通して、他者と協働できた 87.3% →両項目ともに、例年より10%ほどポイントが下がっている。その理由を考える必要がある。 ・自分の学校を中学生に勧めることができる 生徒88.7% 教職員100%	A	・フィールドワークや外部の方との講演会等よく工夫されており、教職員も頑張られている。 ・探究への意欲が2学期後半から3学期にかけて少し下がっているのは、夏に一端成果発表を行っているため致し方ない。目標の90%は超えていないが意識は高まっていると思う。	進路指導主任 (各学年主任)	
○個別支援が必要な生徒への対応	○個々の生徒の状況に即した教育相談	○今年度新規の不登校による長欠生徒数を前年比5割以下にする	・組織的な情報共有と連携による対象生徒の早期発見、早期対応 ・SC、SSWや外部機関等との連携 ・適切な対応力醸成のための職員研修の充実	A	・各担任と保健指導部との連携が、対象生徒の早期対応に貢献できている。 ・SCやSSW、外部機関との連携も良好である。 ・職員研修も実施できた。	A	・2学期以降に教室に入ることが困難な生徒が増えた。別室体制が無く空間的・人的資源が不足する中で、学年や保健室等の対応により欠席を何とか免れているケースもある。 ・SCやSSWと密に連携を図ったり、医療機関や専門機関とケース会議を実施したりして、個別対応を積極的に行った。	A	・インフルエンザやコロナウイルス等で、欠席数が増えてくるのは致し方ない。 ・スクールカウンセラーへの相談回数も増えており、しっかりと生徒の支援を行えている。	教育相談担当 (保健指導主任)	
○広報活動	○保護者、地域への積極的な魅力ある情報発信	○学校評価アンケート結果: ・本校の情報発信の取組みへの評価 80%以上	・西高だよりや学校ホームページ、スクールNEWSを活用した、学校行事や進路情報、部活動成績などの情報を随時提供 ・西高だよりの年6回の発行と内容の充実 ・学校ホームページ月2回以上の更新 ・保護者へのスクールNEWS登録の推奨	A	・学校ホームページの更新、西高だよりの発行などを定期的に行うことができている。また、生徒の活動が可視化できるように各種業の写真などを積極的に公開している。	A	・西高だよりは例年通り、年間7回発行する予定。 ・学校ホームページは1月末現在で55回更新。 ・各種行事の様子を積極的に配信している。 ・生徒の活動を含む本校の取組みを正確性と即効性を持って発信されるように、データと刊行物の両方からの情報提供を目指すことができた。	A	・十分な情報発信ができていると思う。動画での配信に取り組んでもらいたい。 ・HPは視聴数が少ないので、サイト導線に工夫が必要。動画を編集しインスタグラム等へ呼び込む等やり方はある。	広報研修主任	

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育 ★...唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	<p>・進路実績に対する学校への内外からの期待は大きい。次年度も引き続き様々な取り組みを行う。</p> <p>・成果指標によっては、容易に結果が追いつかないものがあった。次年度は成果指標の見直しも含め検討を行いたい。</p> <p>・今年度も総合的な探究の時間の取り組みは高く評価できたが、時期をはやめた分、2学期後半の生徒のモチベーションの維持に苦労した面もあった。次年度は、生成AI等の新たなツールの利用も検討したい。</p> <p>・広報活動は十分されていた。次年度は、HPのサイト導線を工夫したり、動画機能等を活用した新たな情報発信を模索していく。</p> <p>・標準服制度については、生徒との協議等を経て実施に至った。次年度は、生徒の自主性を生かしつつ、ヘルメットの着用やTPOに合わせた服装、SNSの利用等について、規律やマナーを考えて判断できるようにしていく。</p>
----------------	--